

北海道ぎょれん広報



なみまるくん



1

2022
No.399

[うみ・なかま コミュニケーション]

北海道
ぎょれん



特集

海・ひと・夢 スペシャル 新春 会長インタビュー
ぎょれん常勤役員の新春メッセージ

海ひと夢スペシャル

新春会長インタビュー

様々な環境の変化に 対応できる体制の構築へ



川崎一好会長

明けましておめでとうございませう。
新春にあたり、川崎会長に
昨年を振り返り、新年に向けた
お話を伺いました。

[うみ・なかま コミュニケーション]

なみまるくん

北海道ぎょれん広報誌
Hokkaido Gyoren Magazine
January 2022 No.399

1

- 01 海ひと夢 スペシャル
新春 会長インタビュー
- 04 新春企画 ギョレン常勤役員
新春メッセージ
- 06 特集2
ギョレン職員が選ぶ ギョレン5大ニュース
- 08 特集3
ギョレン広報誌通巻400号へカウントダウン③
浜とギョレンをつなぐ広報誌
- 10 なみまるインフォメーション
- 11 頭すっきり!! ブレイクタイム
- 12 大漁祈願!
浜のほっとニュース
- 13 みなさんのお便りでつくるページ
なみまる おたより箱



表紙の写真
南かやべ漁協 尾札部漁港です

南かやべ地区は大型定置網の大謀網漁業発祥の地です。今年の冬はさばが連日大漁で港が賑わいました

「新しい北海道の漁業」の構築を

昨年を振り返ると一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まらず、消費そのものが低迷状態から脱却することができなかったと感じています。加えて、道東太平洋沖では赤潮による甚大な漁業被害が発生しました。国には緊急対策として地方負担分を合わせ21億円規模の事業を措置していたのですが、今回の赤潮被害については、おそらく1年・2年では元の海の姿には戻れないだろうと思えます。今年・来年以降についても、道が中心となって国との話し合いを進め、赤潮対策・道東対策をしっかりとまとめていただきたいと思います。

また、こうした海洋環境や気候の変化に対応するためには、陸上養殖や海上での囲い込みなども含め、人工的に安定した数量の魚介類を消費者に供給できる「新しい北海道の漁業」というものを構築しなければならぬと考えています。これらについてもぎよれんを中心に、全道の考え方をまとめながら取り進めていきたいと思います。

広がる浜格差に懸念

昨年はさばが突如として羅臼で獲れ

ためには、養殖昆布の増産が必要であろうと考えています。

漁業後継者が希望を 持てるような資源管理を

4月から国の新しい水産基本計画がスタートする予定です。資源管理の強化や成長産業化のための養殖事業の推進などが盛り込まれるようですが、資源管理について、国の考え方と漁業者の考え方が乖離している訳ではないと私は思っています。漁業者も獲り過ぎると海から魚がいなくなるということは何十年も前から肌で感じています。これまでも自主的にそれぞれの地域で魚種別に規制が行われてきたことも事実です。

国は漁業法改正によって「漁獲制限を課せながらも緩やかな形で、元の数量が確保できるような方向性を持っていきたい」という話でしたので、我々は漁業法改正も含めて賛成をし、国と一緒に漁も改革に乗り出そうとしました。しかしながら、国の進め方があまりにも早く、漁業者がついていきませんでした。漁業者としては、国が示しているような長い期間で漁獲制限や禁漁などを行えば、将来、生活がでなくなるのではないかと不安になります。そうではなく、国は「漁獲量を徐々にでも増やしていきながら、漁業

だし、太平洋側では真だらが異常なほど豊漁となるなど、各地区・各漁港で対応に困りました。こうした魚が安定した水揚げを維持できるのであれば、各地域での素早い加工・流通への対応が可能になるとは思いますが、一過性のものではないかと、なかなか加工業者も投資できないでいますので、ぎよれんとしても、加工・流通に最大限の努力をしていかなければならないと考えているところです。

また、秋鮭についてはこの2・3年、関係系統団体が相当苦労をしながら親魚や種卵の確保に努力してきましたが、水揚げそのものがついてこなくなつたうえに、浜格差も非常に広がっています。水揚げ量の格差はあつたとしても、全道くまなく、ある程度の生産量を誇った時代に1日も早く戻していかなければ、北海道の基幹産業の一つである、優秀な増養殖事業が失われてしまう可能性があります。行政側にもこのことを認識していただいて、持てる力や知識をふんだんに注ぎ、一致団結して今の気候変動下にある秋鮭の増養殖事業を確立させていかなければならないと思っています。

ほたてについては、非常に心配した時期もありましたが、各浜の皆さま方のご努力で昨年に続き40万トン代の水揚げを確保できるようになり、大変ありがたいことです。漁業者、それと行政のお力添えで一番難しい時期を突破

後継者が希望を持てるような漁業に成長させていく」ということをもつと説明しなければなりません。今の漁業者があつて将来の漁業者が成り立っていく訳ですから、そこをしっかりと理解していただいたうえで漁業改革を進め、10年後、100年後にあのときやっておいて良かったな、と言えるような形を作っていきたいと思っています。

SDGsの達成と 環境の変化への対応

漁業を生業とする我々は、「海の豊かさを守ろう」は当然として、SDGsの達成に向けた取組を模索していかなければなりませんし、また、達成しなければ、漁業の衰退は止まらないだろうと思えます。ぎよれんとしまして「脱・抑プラスチック」を常に意識し、浜に対して自然環境を守っていなければならぬという啓蒙運動を続けてきました。あるいは、海浜清掃や植樹についても積極的に取り組んできたと思っています。

ただ、これはぎよれんが声を上げる前に、各地域でそれぞれの組合や市町村でずつと行われてきたことです。これに国の方向性が重なり、今はもっと加速をさせた取組が必要になってきており、機運が高まっている今こそ、浜の海浜清掃や沖で網にかかったごみを



することができたと思っています。これからも生産数量が増える良い方向性が出来上がってくるのではないかと、大変期待をしています。流通についても、国際的な需要については、まだまだ伸びしろがあると思っています。流通体制がしっかりと整えば、より良い方向へ向かっていけると考えています。

昆布に関しては、道南を中心に、日高、釧路、根室の天然昆布の生育が非常に悪く、警戒をしているところで、さらに今回の道東沿岸の赤潮が、釧路・根室の来年以降の新昆布へどうい影響をもたらすのか、養殖で1年目を終え、茎だけになった昆布がもう一度葉がでてくるのか、今の段階では分からないところです。赤潮の問題は別にしても、今後昆布の生産を増やす

陸上に運んできて処分するということや、作っていかねばならない時代を我々作っていかねばなりません。

また、コロナ慣れでは無いですが、例えばマスクをつける、密を避けるなど、コロナ禍に対応する我々一人一人の行動が日常生活で普通になってきたと感じています。そして、感染が流行し始めた当初に比べて恐れが薄くなってきたと言いますか、現在の状況に合わせた対策を冷静に考えられるようになってきたことで、消滅環境は改善してきていると思っています。

自然環境についても低気圧や赤潮などの自然災害が発生しそうであれば、そういった状況をいち早く浜に知らせる、また、災害が発生したとき、どこまでどのように広がるのか、そのメカニズムをできるだけ早く解明していただき、漁業者が抵抗できないまでも、少なくとも対応をできるような形を1日も早く取りたいと思っています。

漁業者が命懸けで作育てる、あるいは漁獲している魚介類を、おいしい状態で消費者に提供できる体制を皆さま方と一緒に考えています。今年こそ、明るい一年になることを期待しています。



常務
本間 靖敏

昨年は、新型コロナウイルスや道東太平洋の赤潮など自然界の力は人類にとって予想もつかない大変な脅威になるということを改めて思い知らされた年でした。

今年は、地震、台風、大雨などの自然災害、地球温暖化の海況変化による水産資源の変動など、予測できない環境変化にどう対応していくか、資源管理・増大対策はもとより、藻場保全、河川環境改善、植樹活動、海浜清掃（海洋プラスチック問題）、CO₂削減のためのブルーカーボンなど、科学の力と漁業者の英知を集めて、海の環境・資源を守るため、身近なことから取り組んで参ります。



常務
伊藤 貴彦

昨年もコロナに振り回された一年でした。冠婚葬祭は省略か中止、職場はリモート…未来の生活スタイルが一足早く訪れるなか、私のヒザも突然悲鳴を上げました…そんな体形じゃないのに…まさか（ショック！）

予想だにできなかったのは“赤潮”。
自然の厳しさと難しさを改めて思い知らされました。
体も環境も刻々と変化し、トラブルは突然やってきます。
慌てず、振り落とされないように、個人も本会経営も、しっかりと準備していきたいと思えます。



常務
山口 重幸

2年続きのコロナ禍で、業務にも大きな支障をきたす状況でしたが、国内外の巣ごもり需要と徹底した感染防止を行った中国や経済優先の欧米による景気回復による輸出拡大により、ほたては順調に流通させることができました。

令和4年のほたても引き続き順調な水揚げが見込まれており、国内及び海外の消費状況に臨機応変に対応しながら、円滑な販売を行う所存でございます。



常任監事
村上 和美

あけましておめでとうございます。
一昨年に続きコロナ禍に振り回され、不漁と赤潮に悩まされた1年でした。
監査業務は東京支店の上期監査は感染拡大のため取りやめましたが、他はスケジュール変更をしながら実施出来ました。
コロナ禍の中、勤務体制が時短・在宅勤務などに加え、勤務終了後は直行帰宅するため、奥様方他家族にとっては大変迷惑な一年だった様な気がします。
南アフリカを筆頭に変異株の感染が拡大しつつありますが、一日も早く特效薬が開発され、平穏な日常が訪れることと、海難事故のないことを祈念いたします。



ぎょれん常勤役員の新春メッセージ

質問項目

- ◎昨年を振り返って
- ◎新年にあたっての抱負、メッセージ



副会長
菊池 元宏

新年、明けましておめでとうございます。
昨年の本道漁業は、帆立が好調であった反面、秋鮭・昆布等の太宗魚種の水揚げが低水準にとどまり、特に秋鮭については地域間格差が拡大した年でした。コロナ禍が引き続くなか、未曾有な赤潮の発生により太平洋沿岸地区に甚大な被害を及ぼしました。衷心からお見舞い申し上げます。

今年は、資源回復・環境への取組など多くの難問渦中にあるなかで、再生・復活が大きな目標となりましょう。厳しいなかでも光明を作り見出し、慎重だけではダメ、大胆だけでも駄目、しっかりと舵取りをしなければならない。そう思います。
今年、再生への船出は“今”と捉え、日々一生懸命取り組むことはもちろん、従来からの発想・枠組みにとらわれない取り組みが必要だと思えます。今を生き、明るい未来を信じて



専務
安田 昌樹

昨年は、地域や組織を超えて、地球規模で環境問題がクローズアップされた年でした。
毎日のように報道される温暖化問題だけではなく、朝ドラでは、環境問題やSDGs要素満載の「おかえりモネ」が放送されました。また、ノーベル物理学賞を真鍋博士が受賞しました。博士は「大気海洋結合モデル」を開発したとされ、温暖化が単に気候や環境の問題ではなく生活や政治の問題となり、社会を大きく変えるものとの認識を示されました。環境問題に対する関心の高まりを改めて感じた年でありました。

本会にとっても環境問題にしっかりと対峙していくことが重要です。既に脱・抑プラの活動を推進していますが、更なる海洋環境保全が必要です。漁業関係者による海浜清掃も始まりましたが、漁業関係者の意識発揚はもちろん、一般人に対して生活ごみの実態を発信していくことも大事です。本会も今まで以上に環境問題に取り組みながら、企業の存在価値を高めながら、併せて水産業の産業価値を高めていくことで、消費者からの賛同消費に繋げていくことが理想だと考えています。



常務
本田 勝実

令和3年度も昆布の減産傾向に歯止めがかかりません。コロナ禍もあいまって消費も大きく減退しています。出漁・乾燥・製品造りなどに更に知恵を結集し生産回復に努めるとともに、消費回復策を模索します。
原油情勢はコロナ禍と国際政治がらみで混沌としており、令和3年度は急激な価格高騰に見舞われました。原油価格は漁業資材にも大きな影響を及ぼします。的確な情報収集に努め、系統購買を通じ安価で良品質の燃油・資材の安定供給に努めます。

3位② 新型コロナウイルス感染症の拡大が続く!

感染防止のため、ぎよれんでは様々な施策を継続して実施。事務所における対面でのアクリル板の設置、時差出勤や時短勤務など就業体制の変更、主催会議行事の延期・中止やリモートでの開催、出張の延期・中止などです。



5位 全道昆布生産量、3年連続低水準。今年も13,000トンに届かない見込み。

生産の減少に加え、長期化するコロナ禍の影響から、業務筋等の売上は回復せず、だし用昆布を中心に流通も低迷しており、昆布業界は、厳しい状況が続いています。



惜しくもベスト5から外れた、6位以下はこちら

6位 ぎよれんマリノサポート(株)と(株)ぎよれん設計センターが合併。10月1日から新会社「ぎよれんマリノサポート(株)」がスタート。

7位 国が福島第一原発のアルプス処理水の海洋放出を決定! 国は、風評への懸念を払拭するための「当面の対策」と、300億円規模の予算措置を表明も、本道の漁業者の「海洋放出に断固反対」の姿勢は揺らぐことなし!

8位 2007年以来、14年ぶりにメールソフトを一新。Microsoft365を導入し、業務の効率化を図る。

9位 利用事業である離島へのA重油輸送事業を6月をもって終了。

10位 総合食品製造の「秋鮭フライ」「秋鮭ポテト焼き」の販売が大幅伸長。メーカー在庫もなくなり、製造キャパも限界に近づいたことから、8月出荷分について、操業開始以来、初めて販売を休止。

今年は良いニュースがたくさんあることを期待しています。

ぎよれん職員が選ぶ ぎよれん5大ニュース

ぎよれんでは毎年年末に、「今年のぎよれん5大ニュース」を職員の投票で決めています。新型コロナウイルス感染症のまん延が続くなか、東京五輪・パラリンピックが開催となり札幌でもマラソン・競歩が行われましたが、2021年はどのような年だったのか、ぎよれん職員の視点からご紹介します。※今年は3位、4位が同票のため、同率3位となりました。

1位 本道太平洋沿岸域(日高～根室)において、国内史上、最大規模の赤潮被害が発生。

うにや秋鮭等の斃死により、被害額は80億円超に! 系統組織一丸となって、赤潮発生の原因究明と被害対策を求めて、国・道へ要請活動を展開!



2位 秋鮭3年続けて5万トン割れ。水揚げは昨対104%、47,800トン。

水揚げは残念ながら5万トンに届きませんでした。漁獲金額は370億円超となりました。



3位① 全道のほたて水揚げ量は、昨年に続き430,000トンを越える見通し。

2年連続の40万トン台。国内外のマーケットを掌握し、安定供給に努めていきます。





音楽や料理で喜んでいただくのが僕の役割
グッチ 裕三さん



世界へそして未来へ
高橋 はるみさん



生まれた海に戻った
鮭の心境で漁師さんを
応援したい
三國 清三さん



負けてたまるか
木村 洋二さん



人に良いと書いて
“食”と読みます
星澤 幸子さん

ぎよれん広報誌通巻400号へカウントダウン③ 浜とぎよれんをつなぐ広報誌

これまで「海・ひと・夢」では前身の「この人と30分」から数えると総勢244名の方にご登場いただきました(写真はほんの一部です)

昭和63年に創刊した広報「ぎよれん」(平成12年にリニューアルして「なみまるくん」にタイトルが変更)は、今年2月の発行で400号の節目を迎えます。これを記念して今までの足跡を振り返る特集の第三弾は、「海・ひと・夢」をはじめとするインタビューからぎよれん歴代会長の特別インタビューの一部を時代とともに振り返り、ご紹介いたします。

石崎喜太郎会長 (任期：昭和55年5月～平成7年5月)



左のQRコードからインタビューのPDFを見ることができます

に行っていた漁船漁業は厳しい経営を強いられていました。そうしたなか、ぎよれんは再建達成計画の10年目を迎え、翌年の再建達成後にどう取り組んでいくのか、具体的な行動を起こすべき年だとしています。

また、平成元年は北海道水産物の流通円滑化を進めるために、東京などの消費地での販売対策、そして市場の全面共販に向けた取組を重点事項として推進していきたくと話されています。

北島哲夫会長 (任期：平成7年5月～平成19年6月)



平成25年6月に行われた第64回ぎよれん通常総会・理事会にて川崎会長が就任となり、8月発行の298号で北海道漁業を取り巻く状況へのお考えや今後の抱負について、お話しいただきました。

このときからすでに「自然との共生」が重要として、そのために資源管理や付加価値向上への取組を進めていきたいと語られています。そしてご自身としては、これまで以上に環境問題や資源管理に積極的に取り組むために、浜の皆さんと一緒に頑張って勉強し、「誠心誠意」「真心」を大事に、まっ直ぐ進みたいと熱く抱負を語っていただいています。

一昨年からの新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、現在はインタビューもモニター越しのリポート形式となっていますが、ぜひ今年も直接お話を伺い、その方の熱量も伝わると感じたいと思っています。

今回掲載の4名の会長のインタビューは、ぎよれんホームページの「WEBマガジン なみまるくん」の「なみまるくん」冊子版バックナンバーから見ることが出来ます。QRコードをスマートフォンやパソコンで読み込んでいただくか、パソコンで「なみまるくん バックナンバー」をご検索下さい。

平成19年6月の総会・理事会で選出された櫻庭会長からは、その翌月発行の226号で「海・ひと・夢スペシャル」として、会長就任にあたっての抱負などを伺いました。

櫻庭会長の所信表明とも言えるインタビューでは、「北島前会長から『北海道ぎよれん』というバトンを渡されました。そのバトンの中には、北海道漁業が果たすべき役割と浜からの期待が詰まっています。その重いバトンを落とさないように、浜の皆さんと一緒にグラウンドに降りて走りたいのです。そして次の世代の人にしっかりとバトンを繋ぎたいと考えています」と、次の世代が夢を持てる北海道水産業の実現に全力を尽くしていくこと、そして浜を良くするために「実践躬行」の精神で共にがんばりましょう、と思いを語っていただきました。

川崎一好会長(任期：平成25年6月～)



実践躬行：自分で実際に行動すること

櫻庭武弘会長 (任期：平成19年6月～平成25年6月)



北島会長には平成8年1月発行の87号で、石崎会長と同じく年頭所感としてお話を伺っています。

就任された平成7年度は、本道の基幹産業である秋鮭が過去最高の水揚量となる一方、価格は前年を下回り、秋鮭定置網漁業そのものが大きな岐路に立たされたとあります。この状況を打開するため、旬の時期の生鮮供給の拡大、すり身加工、中国向け輸出など、浜と一体となった秋鮭対策事業の継続と拡大を図ったことで、流通の混乱を乗り切ることができました。

また、世界的に貿易自由化が加速し、流通環境が激化の一途をたどるなか、北海道漁業が生き残るためには、時代の変化に即応した構造改革が急務であるとして、漁協の合併などを含めた経営基盤の強化、さらには系統団体の組織・機能の見直しによる合理化を進めて足腰の強い盤石な系統組織を築き上げる必要があると話されています。



シークワードクイズ

1月のテーマ 「色」

1月は「色」がテーマです。伝統色は「いにしえから伝わる色」のことです。日本人は古くから色を繊細な感覚で感じ取り、生活に活かしてきました。

図の中で、たて、よこ、ななめの一直線に下のリストのキーワードが読めるようになっています。

どこにあてはまるか探してください。すべて探し終わったら、どれにも使用しなかった文字をうまく並べかえてください。

リスト

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> アカスミ(赤墨) | <input type="checkbox"/> カレクサ(枯草) |
| <input type="checkbox"/> アサギ(浅葱) | <input type="checkbox"/> ココア |
| <input type="checkbox"/> アサハナダ(浅縹) | <input type="checkbox"/> サンゴ(珊瑚) |
| <input type="checkbox"/> アンズ(杏) | <input type="checkbox"/> スミレ(堇) |
| <input type="checkbox"/> ウグイスチャ
(ウグイスチャ)(鶯茶) | <input type="checkbox"/> チグサ(干草) |
| <input type="checkbox"/> ウスザクラ(薄桜) | <input type="checkbox"/> ネズミ(鼠) |
| <input type="checkbox"/> ウズミ(薄墨) | <input type="checkbox"/> ハイチャ(ハイチャ)(灰茶) |
| <input type="checkbox"/> ウノハナ(卯の花) | <input type="checkbox"/> ミル(海松) |
| | <input type="checkbox"/> ラクダ(駱駝) |

【ヒント】天然素材として塗料や染料、あるいは万能民間薬として活用してきました。

ア	サ	ハ	ナ	ダ	ク	ラ
コ	サ	ハ	カ	レ	ク	サ
コ	ノ	ギ	カ	ザ	ミ	ミ
ウ	グ	イ	ス	チ	ヤ	ス
キ	ス	ウ	ミ	チ	シ	カ
ア	ン	ズ	イ	ル	グ	ア
ブ	ネ	ハ	ミ	ゴ	ン	サ

どれにも使用しなかった文字を
うまく並べてください。

【解答】 となります。

くわしい応募方法は、13ページをご覧ください。
抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

カ	ズ	ミ	ツ	ミ	ツ	ヤ	チ
サ	ツ	シ	ゼ	ズ	モ	キ	
バ	ニ	オ	コ	ラ	ナ	ツ	
タ	ア	イ	ク	ジ	ブ	サ	
シ	カ	サ	カ	ク	ツ	ア	
ア	ガ	ク	リ	カ	ナ	ツ	
ヒ	ウ	ハ	セ	ゴ	アラ		

12月号の解答と当選者
サワラ

(函館市)田島 京子さん
(函館市)福沢 教夫さん
(厚岸町)高寺 ノリさん
(標津町)サナの助さん
(湧別町)北谷菜津子さん

解き方

リストの言葉をマス目の中からタテ、ヨコ、ナナメの一直線に探していきます。文字は逆方向から読んでも、他の言葉と重複して読んでもOK。すべて見つけた後、使われなかった文字をうまく並べかえると答え(魚の名前)になります。

例題

ア	コ	ン	ブ
キ	ア	サ	リ
ア	バ	ン	サ
ジ	コ	マ	イ

【リスト】

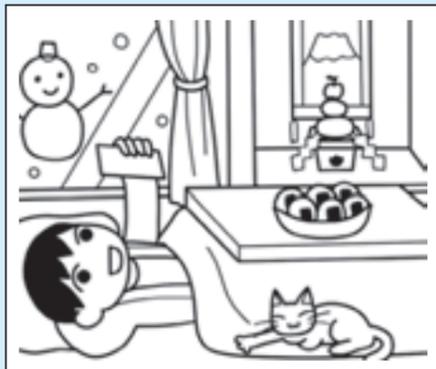
- アキアジ
- コマイ
- プリ
- サンマ
- コンプ
- アサリ

【解答】サバ

間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5カ所の異なる箇所があります。
さあ、見つけてください。
(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは13ページにあります。

01

札幌市内の児童福祉関連施設へ道産水産物を寄贈 「子どもたちにとって何よりのお年玉」 札幌市から感謝状をいただきました

12月8日(水)、札幌市子ども未来局において、ぎょれんより札幌市内の児童福祉関連施設14カ所へ道産水産物の寄贈を行いました。平成5年からクリスマスの時期に毎年実施している取組で、今回で29回目となります。

今年は秋鮭の切身やいくら醤油漬、刺身用のほたて貝柱など130万円相当の水産物の目録がぎょれんの安田専務から札幌市子ども未来局の山根局長へ贈られると、山根局長から「正月を華やかに彩る水産物は子どもたちにとって何よりのお年玉。また、地産地消の大切さや日本の食文化を学び、食への感謝の気持ちを育む機会をありがとうございます」と感謝状をいただきました。



目録を手にする札幌市子ども未来局の山根局長(右)と、感謝状をいただいたぎょれん安田専務(左)

02

視覚支援学校の生徒へ特別な体験と給食をプレゼント ぎょれんと北海道コンサドーレ札幌で クリスマスイベントを開催しました

12月16日(木)、ぎょれんと北海道コンサドーレ札幌は、北海道札幌視覚支援学校の幼稚部と小学部の子どもたちを対象に、特別給食と北海道コンサドーレ札幌・サンタ隊による交流会を通じたクリスマスイベントを開催、約20名の生徒が参加しました。

当日は北海道コンサドーレ札幌の「サンタ隊」として、クラブマスコットのドーレくんをはじめ、オフィシャルダンスドリルチーム コンサドールズからトップ・サテライト合わせて6名のメンバーがサンタの衣装で登場。体育館でPK対決やダンスを通じて子どもたちとの交流を深めると、続いてぎょれんをはじめ協賛のパートナー企業が提供したお菓子やドリンクなどが「クリスマスプレゼント」として子どもたちに贈呈されました。

その後は楽しみにしていた特別給食「ぎょれんスペシャルランチ」の時間。道産の玉冷や刻み昆布の入った「ぎょれんカレー」や、秋鮭のフライなどの豪華メニューが提供されると、「おいしい」とカレーをおかわりして食べるほど大好評。お腹が満たされると生徒たちは大満足の笑顔で、一生の思い出に残る特別な1日となったようでした。



ぎょれんからはクリスマスプレゼントとして干貝柱、鮭フレーク、昆布を贈らせていただきました



みんな「ぎょれんスペシャルランチ」の時間を楽しみにしていました

皆様からのお便り、写真、イラストをお待ちしています!

次の①～③を明記の上、ご応募ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

- ①なみまるおたより箱への投稿(お便り、写真、イラスト等)や、広報なみまるくん1月号への感想・ご意見など(※150字程度まで)
②11ページのシークワードの答え
③住所・氏名・年齢・電話番号

【宛先】1月24日までに送ってください。

(郵便) 〒060-0003

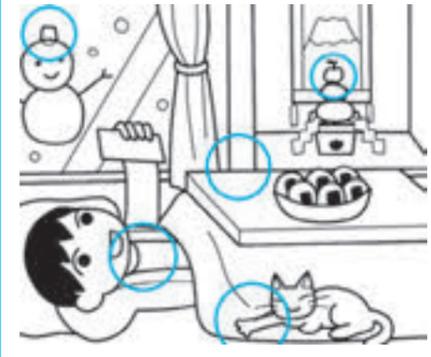
札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道ぎよれん 総務企画部 広報担当

(FAX) 011-242-3543

(電子メール) info@gyoren.or.jp

※「なみまるおたより箱」には①からご紹介します。ご応募いただいた方の個人情報は、図書カード進呈や、お便り、写真、イラスト等の掲載(氏名、年齢、市町村名)にのみ使用いたします。写真やイラストは、返却できませんのでご了承ください。

11ページの間違いさがしの答え



12月になりましたが雪が積もっていません。こんな12月を過ごすのは初めてです。カキのおいしい時期になっただけ、雪がないと食べても寂しいです。早くつもれー!
(八雲町 八雲ジジさん 86歳)



身近な魚の不漁や赤潮の被害など、漁業関係者の皆さまには大変な時代です。なみまるくんを読んでいると、そうした環境変化に対応しようとする努力する皆さまの思いが伝わってきます。北海道で生まれ育った者として、やはりお正月には鮭やいくらがないと寂しいです。夏には新鮮な刺しが食べたい、秋には脂がジュウジュウするサシマの塩焼き、上品な味わいのシシャモ...。そうした希望はもう贅沢なのかもしれません。環境に合わせて、シーフードを楽しむように消費者としても努力しなければなりませんね。北海道漁業、これからも応援しています。
(札幌市 ビーもさん 67歳)

お正月を間近に控え、家内は大掃除と久しぶりに帰省する息子一家を迎える準備で大忙し。道産水産物が大好物の息子のため、お正月と言えば、イクラ、数の子、ババガレイの煮つけが三種の神器のように食卓を飾りましたが、今年は秋鮭が不漁の為、超高級品となったイクラは??代わりになり、今が旬で、たら腹食べても家計にやさしい真鱈のフライをご馳走したいと思います。浜のお母さん直伝のいくら正油漬作りが生かせるよう、秋鮭はじめ道産水産物の豊漁を心から願っています。
(なみまる通信員さん)

寒くなってきました。今年は雪たくさん降るかな?2歳になったばかりの子供に雪山などつくって沢山遊ばせてあげたいです。年末に頑張った飯寿司食べるの楽しみだ!
(標津町 サナの助さん 29歳)

今、あっち、こっちで地震が起きるの怖いですね。気をつけていても地震だけは気をつけようがない。冬に起ると尚困る。地震、雷、火事、おやじって本当ですね。
(函館市 田島京子さん 71歳)

あけましておめでとう! 編集後記

2021年もあっという間に過ぎ去ってしまいました。3年ほど前にダイエツト目的で始めたランニングがいつの間にか通勤手段となり、昨年はその間年の走行距離が4,000キロを超えました。
まだまだ「なみまるくん」担当としては新人ですが、今年こそはランニングで培ったあふれる体力で、全道の浜を駆け回り、誌面を通じて皆さまに笑顔を届けられるように頑張りたいと思います。
(古村)

今年の干支は寅ですね。虎の威を借りず、謙虚にそして大虎にならぬよう健康に留意し、時には虎穴に入る覚悟をもつことにあたりませう!
本年も「なみまるくん」を通じて浜の皆様にご愛読を申し上げます。
(藤江)



家族、仲間の思いを胸に 今年も目指そう海難ゼロ

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター

news 漁のほつとニュース 大漁祈願!

小樽 新年あけましておめでとうございます。真たらや助宗をはじめかれい類、ひらめなどが年の瀬を迎えた市場を賑わせています。一方、年明けには石狩湾沿岸でしん漁が解禁となります。水産試験場の予想によると、資源量は漁期序盤から中盤の来遊は昨年度と比べると少なく、終盤の来遊は多くなる見込みです。予想を上回る豊漁と安全操業を祈念します。

梶山 新年、明けましておめでとうございます。助宗だら延縄漁が始まりました。寒風吹きさぶ冬の日本海は時化が多く、水揚げの本番はこれからですが、冬の風物詩「釣り助宗」を楽しみにしている方々のためにも、今後の水揚げ増加に期待を寄せています。本年も、安全操業および豊漁の一年になることを祈念します。

函館 新年、明けましておめでとうございます。噴火湾の助宗だら漁が最盛期を迎え、水揚げは昨年約170%と好調に推移しています。定置網漁ではさばやいわしが主魚で、1,000トンを超す日もあり、浜は大変な活気に満ちています。この豊漁が続くことと、令和4年が皆さまの安全操業および幸多い一年になることを祈念しています。

室蘭 新年あけましておめでとうございます。助宗刺網漁は、まとまった水揚げが何度か続き、12月16日現在で昨年度対比124%と、順調な操業が続いています。もう一つの管内主要魚種であるほたて漁も本格化し、今後の漁模様に期待がかかります。気温も下がり、時化模様が多くなる季節となりました。本年も生産者の皆様の安全操業と豊漁を心より祈念しています。

日高 新年あけましておめでとうございます。令和3年度は秋鮭や助宗、貝類が大幅な水揚げ減少となりましたが、真たらは11月末累計で昨年の2倍以上の水揚げ数量となりました。急激な水揚げ増加のため、単価は安値傾向となりましたが、約1.5倍の取扱金額となりました。現在、真たらからばがれい主体の水揚げとなっており、昨年と比べると好調な水揚げとなっています。このまま順調に水揚げが続くことを祈っています。

釧路 新年、明けましておめでとうございます。本格的な寒さに見舞われている当管内では、ばがれい、毛がに、ほっき、たこなどの冬の主役達の水揚げが本格化してきました。ばがれいは好調ですが、他の魚種は好調とは言い難い状況が続いているため、これからの巻き返しに期待しています。今年も厳しい寒さが続くことが予想されますが、引き続き安全操業を祈っています。

根室 新年あけましておめでとうございます。12月2日から野付漁協のほたて桁曳網漁が始まりました。根室、野付、標津を合わせて日々200から280トン程のほたて貝が水揚げされ、浜は活気に溢れています。天候は時化早くなるのに加え、早朝には氷点下まで気温が下がり、非常に厳しい条件下での操業となりますので、皆様の安全操業を祈念しています。

北見 新年、明けましておめでとうございます。ほたて漁、底建網漁も終漁し、オホーツク海はすっかり冬本番を迎えています。一方、サロマ湖内のかき漁は旬の時期を迎え、水揚げが本格化しています。これから鍋料理を中心として需要が高まるなか、水揚げ量・浜値ともに昨年を上回ることを期待しています。日に日に寒さが増していますが、本年も各漁の安全操業と大漁を心より祈願しています。

稚内 新年明けましておめでとうございます。連日の降雪と時化も増えるなか、利尻・礼文地区ではたらとかれいの刺網漁が操業しています。一方、管内では多くの船が上架され、雪解けと今年の出番を心待ちしています。今しばらくは厳しい寒さが続きますが、今年は天候に恵まれ安全操業で豊漁となることを祈念しています。

留萌 新年あけましておめでとうございます。11月から、ほたて半成貝の出荷が始まりました。11月上旬に時化の日が多く出荷が思うようには進みませんでした。11月下旬から12月中旬にかけて、出荷回数が増え出荷ペースが上がってきました。一方、えびこぎ網漁では赤かれいや真たらの水揚げが堅調に続いており、各浜は賑わいを見せています。今後より一層寒さが厳しくなりますが、安全操業で皆様が豊漁となることを心より祈念しています。



レシビアクセス数

第50位

たこの炊き込みご飯

今回は「たこの炊き込みご飯」をご紹介します。
ひだか漁協 星野重子さんのレシピ。たこが水揚げされる浜ではおなじみの漁師料理です。生だこをご飯と一緒に炊き込むものや、炊き上がったご飯に煮だこを混ぜたりするものなど、浜ごとに調理法も多種多様です。
今回は、手に入りやすいゆでたこ（煮だこ）を使います。



2022年はぎよれんのホームページ「おすすめレシピ365」のアクセス数上位50位からレシピをご紹介します。
魚種や料理法の重複など考慮して掲載を決めています。

*2020年1～12月調べ

材料 4人分

米	3合
もち米	50g (米の1割分)
たこ	200g
にんじん	1/4本
ごぼう	1/2本
油揚げ	1/2枚
生しょうが	適量
醤油	大さじ2
酒	大さじ1
砂糖	大さじ1と1/2
だし汁	50cc
油	少々
きざみのり	適量



作り方

- ① 米ともち米を研いで30分水につける。
- ② にんじんはせん切り、ごぼうはさがき、油揚げは細切り、生しょうがはせん切りにし、油でさっと炒める。
- ③ ②がしんなりしてきたら、だし汁を入れ、醤油、酒、砂糖を加え、ひと煮立ちしたら火を止める。ざるにあげて具と煮汁に分ける。
- ④ ①の水気をきって炊飯器に入れ、③の煮汁を3合の目盛りまで加え（足りない場合は水を足す）、その上に具とたこをのせて炊く。
- ⑤ 炊き上がったら、ざっくりかき混ぜる。
- ⑥ 茶碗に盛り付けたご飯の上にきざみのりを散らしたら出来上がり。